テンノウメ（*Ostemeles anthyllidifolia*）の栽培

（別名　イソザンショウ）

田　中　國　昭

目　　的

唐湊果樹園では1995年より，テンノウメ（イソザンショウ）の鉢栽培を無加温ビニールハウス１棟で行なっている。テンノウメは，バラ科の常緑低木，葉は厚肉質，羽状復葉で光沢がある。

４～５月頃に梅の花のような小さい白色の五弁の花が開く。木は地表をはうように生育する。南西諸島や沖縄の海岸に自生しており，枝ぶりのおもしろさから盆栽に使われている。葉がサンショウに似ているところからイソザンショウの名称がある。園芸ブームの昨今，自生地は一時乱堀された。今日では保護のために，持ち出しは規制されている。長期間の観賞が可能で，愛好者が増加している。そこでテンノウメを種子及び挿し木繁殖して栽培することにした。

材料と方法

1996年２月育苗箱に，赤玉土単用，赤玉土：鹿沼土＝１：１の割合の用土には種し，無加温ビニールハウス内（温度最高30℃最低０℃）に置いた。３～４週間でほぼ80％発芽した。用土間には，発芽・生育に特に差はなかった（第１図）。

１回目鉢植えを７月～９月の本葉３～４枚の時（第２図），赤玉土：鹿沼土＝１：１の用土でポリ3.5号鉢に植えた（第３図）。

２回目を1997年４月～５月に，赤玉土：鹿沼土＝１：１割合でプラ鉢4.5号鉢に植え替えした（第５図）。

３回目は1997年８月～９月に，仕上げ用として素焼浅鉢５号鉢に植え替えした（第７図）。

樹姿を整えるための針金掛けは，直径２㎜のアルミ線で20㎝伸びたものから行った（第６図）。

施肥は，油粕：骨粕＝７：３割合で，鉢植え替え時に鉢当り２～３ｇ行なった。

結果と考察

テンノウメは，新生根の発生や根の成長が旺盛で，鉢内は根詰まりしやすいので出来るだけ早めの植替えが必要である。

陽光を好む植物なので，長期時間日光の当たる場所に置く。日陰に長期間置くと葉は黄色くなって落ちる。高温や乾燥に強く，また温度０℃でも耐え，被害はなく強い。

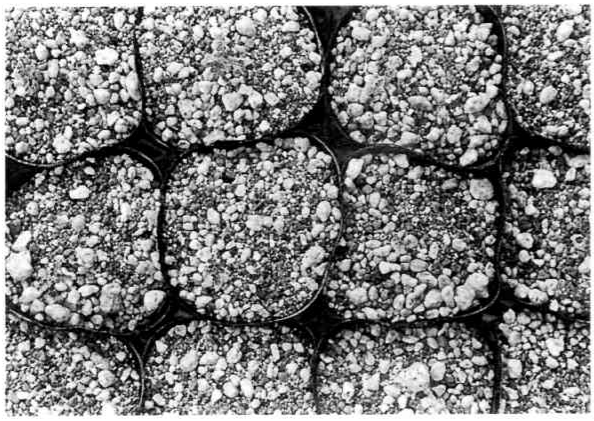
施肥は油粕・骨粕＝７：３割合で，少量をこまめに施肥したほうが良い。

針金掛けは，丹精込めて樹形を整える日本独特の盆栽作り方法であり，手間がかかるので雨の日や暑い６～８月に日陰で行うようにした。

11月に採種し採り播きすると，無加温ビニールハウス内で発芽率が高く，非常に良く生育する。このことから採り播きした方が良いと思われる。発育に応じて植え替えすると，２～３年目から観賞することが可能である。

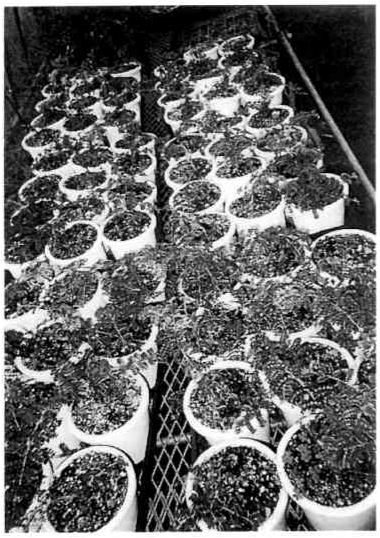
第１図　テンノウメ播種箱

第２図　本葉３～４枚苗



第３図　１回目鉢植え

第４図　針金掛け前



第５図　針金掛け前

第６図　針金を掛けた状態

第７図　素焼仕上げ鉢